

# 東北 VALUE SIGHT

## 山形



東北公益文科大学 特任講師  
**中原 浩子 (なかはら・ひろこ)**

広島市出身。  
上智大学外国語学部卒業。一男一女の母。  
2010年3月に庄内に移住。  
庄内町観光協会、ホテルリッチ&ガーデン酒田を経て  
現職。  
山形県観光審議会委員、山形県地域アドバイザー、鳥  
海山・飛鳥ジオパーク構想推進協議会設立準備会アド  
バイザー

東北公益文科大学  
山形県酒田市飯森山3-5-1  
<http://www.koeki-u.ac.jp/>

地域に眠る資源を掘り起こすことが、地域活性化には大切だと言われている。地域資源とは、住民にとっては当たり前と思われ、価値に気づかずにいることが少なくない。いかにその価値に気づくことができるかが鍵となるのであろう。

東北公益文科大学の中原講師は、庄内にあるたくさんの魅力に気づき、それらに光をあてるべく、日々活動している。

## 地域の光に気づき、それを輝かせて 地域活性化を

### すべてに溢れる何もないところ

千葉在住時に会った映画「おくりびと」。スクリーンいっぱいに映し出された光景に惹かれて庄内に移住した4年前、地元の人から移住の動機を聞かれ異口同音にあきれられた。「どうして、こんな何も無い所に移住してきたの?」と。その間に私は心から驚いた。空も広く、海も川も山も平野もある、こんなにすべてがそろっている所を「何も無い所とは……」。

東京と比べると山形という土地には人工物は少ないだろう。しかし、人工物の持つ浅薄な単調さに辟易し、それらに押しつぶされそうな毎日の時間の流れに息苦しさを感じていた私にとって、人を癒し生かすパワーと優しさを持つ自然が溢れている山形は魅力の宝庫としか映らない。春夏秋冬、朝昼晩で匂いが変わる空気、山の表情、空の色、海の香り、風の音、すべては一期一会の出会いと教えられ、山形の自然が持つ魅力のとりことなった。

### 埋もれたままの地域の宝

庄内に移住して最初に手がけたのが「横島ほうき」だ。横島という地区に200年前から伝わるほうきは種をまき、育ったほうききびを刈り取り、乾燥させて作るという、すべてが人の手による作業工程を今でも守っている。このほうきを見せてもらった瞬間、「これは宝だ」と叫んだ。今の時代に原料から作るモノづくりがまだ残っているということに感激している私の様子を見て、横島の人たちは呆気にとられていた。「こんなもん何が珍しい?」と。

翌年に企画した「種まき・刈り取り・ほうき作りの体験ツアー」に東京から参加者がやってくると、地元の人たちは驚いた。「こんなほうきが人を集めるなんて」と。一昨年はBEAMS店頭における販売も実現し、今年はパリの日仏文化会館に展示されている。横島の人たちは「魔法のほうきだ」と語る。

### 酒田おもてなし隊

大型観光キャンペーン「山形デスティネーションキャンペーン」が9月13日に閉幕した。山形県では県民総参加でおもてなしに取り組み、大学生でも何か地域の役に立ちたいとの想いから、東北公益文科大学の学生有志と共に「酒田おもてなし隊」を設立した。毎週末、期間中に継続して行った酒田駅における観光客のお出迎えとお見送り、観光案内の活動は多くの方に喜んでいただいただけではなく、学生に貴重な変化を与えた。地元が好きではなかった学生が観光客の方に地元を褒められたことで、自分の住んでいる場所を誇らしく思えるようになり、自ら作成した地域紹介マップを用いて案内を始めた。都会の若者にアピールするような旅行企画を考える動きが始まっている。

### 新たな挑戦

私はこれから、鳥海山で新たな挑戦を始めるところだ。山での暮らしが、観光という側面からも生業

となるような、そんな仕組みを作りたいと思っている。観光の現場では、農村での自然体験プログラムと観光客との接点を作れないジレンマを当初より抱えてきた。その仕組みを作ることで、本来日本人が持っていた山での暮らしを一つのライフスタイルの提案にできないかと考えている。また、その一環として里山に人が歩く道を作りたいと思っている。景色を感じ、空気を見て、音を味わい、香りを聞く。それらを感じるには今こそ歩く速度に帰ることが貴重な時間となるのではないだろうか。二足歩行から人となった人間は、いつの間にか、もっと速く、もっと遠くへ、もっと多く、もっと便利にと簡便なことを追い求める欲望の渦に巻き込まれ、道は道路と名前を変え、そこから人の歩く姿が消え去った。人が歩く道をつなごうという動きが県内で出てきている。ぜひ鳥海山も仲間に入って道をつなぎたいと挑戦を始めた。地元で協力してくれる山岳関係者が言った。「道を歩くことが観光になるなんて」と。

### 地域の光に気づく力

昨今は観光が地域を救う救世主のように扱われる事が多い。しかし、私は観光力とは、地域の人がある自分の住む地域の光に気づく力だと考えている。

私は映画「おくりびと」に出会うまで東北を知らなかった。東北とはその音から「北にある遠い土地」「閉鎖的」「暗い」という断片的なイメージしか伝わってこなかった。

しかし、訪れてみてその魅力に驚愕し心酔した。人を癒す力に溢れる自然の美しさもさることながら、人が自然の一部であるからこそ、共存していくためのあらゆる智慧をもつ謙虚な生き様に感激するとともに、人の思い通りにならない自然を相手にするからこそ、忍耐強く生きる姿に感動した。

山形の人たちは自分たちの発信力の弱さを嘆くが、私は発信力に富んだ山形人を求めはしない。山形の光は長い年月をかけて培われてきたそのままの山形の人なのだから。発信という役割は魅力に惹きつけられた私のような脇役の役目ではないかと考えている。地域が自分の光を燦然と輝かせること、それこそが地域活性化と観光地力アップにつながる道となり、それぞれの地域が自分の光と色を放つことで、虹色に輝く日本が創れるのではないかと考えている。



雄大な鳥海山。  
本来日本人が持っていた山での暮らしを一つのライフスタイルとして提案していきたい。